

# 大館教育が奏でる 「学びの交響学」

## ～ふるさとキャリア教育10年の軌跡～

### プロローグ

大館市は、秋田県北部に位置し人口約7万人、少子高齢化や人口減少などの社会的課題を抱えた地方小都市です。いわゆる「消滅可能性都市」の典型的な地方都市なのですが、2011年度から独自の「ふるさとキャリア教育」を根幹に据え、「教育による未来創成」に取り組んできました。小規模ながら壮大な社会実験とも言える10年の軌跡と成果、そして今、大館教育が奏でる「学びの交響学」の世界をお伝えします。

### 1. 第1学章「未来への起点」

#### (1) 大館教育の未来構想図

11年前、次のような未来構想図を描きました。『当面、人口の自然減を止める術はないが、社会減を抑制しつつ、四半世紀後には「少数精鋭の街 大館」を形成し、持続可能な大館の創成を期す。そのためには、自立の気概と能力を備えた「未来大館市民」の育成が不可欠である。その一点に焦点を絞り、大館の教育の総力を挙げて「ふるさとキャリア教育」を展開する。』という構想です。その際、「ふるさと教育」単体では、郷土への誇りや愛着を育むことはできても、都会への流出を抑制する力とならず、「キャリア教育」単体では、生き抜く力は培うことができても、流出の加速という真逆の結果を招いてしまいます。そこで、ふるさととの基盤上に自らの針路を描けるように「ふるさと教育」と「キャリア教育」を融合したしだいです。

#### (2) 大館教育のコンセプト

「大館盆地を学び舎に、市民一人一人を先生に」というコンセプトで、態勢構築を進めてきました。「未来大館市民」を育成するという人財育成教育は、義務教育のみで完結す

ることはできません。「ふるさとキャリア教育」の理念に基づいた、地元の就学前教育、高等学校や大学との「縦の一貫」と、地域社会や地元企業などとの「横の連携」が不可欠だからです。

#### (3) 大館教育の矜持と覚悟

「ふるさとキャリア教育」の実践に当たって、当初から絶対的なテーゼとした理念が、「一人たりとも置き去りにしない教育」です。これは、すべての子どもたちを「未来大館市民」として育成するという大館教育の矜持であり、教育に携わる者としての覚悟でもありました。

次に、「ふるさとキャリア教育」において各学章のテーマを奏でる三つの主旋律を紹介します。

### 2. 第2学章「百花繚乱作戦」

「百花繚乱作戦」は、市内全小中学校がそれぞれに展開している地域の特色を活かした「ふるさとキャリア教育」のメイン活動の総称です。その目的は、ふるさとの魅力を体感させ誇りを醸成すること、併せて、「未来社会を切り開くための資質・能力の育成」です。この活動においては、地域社会との連携が必須であることから、「社会に開かれた教育課程」をマネジメントする実践の場でもあります。また、近年には、各校の活動にSDGs的視点を導入し、さらなる深い学びと価値付けを進めているところです。

キャリア能力育成の観点から、小学校低学年では「人間的基礎力」、高学年では「大館市民基礎力」、中学校では「大館市民実践力」という段階でキャリアアップを図ります。特に、「大館市民実践力」においては、「未来大館市民」として必要な「社会的使命感、社会貢献力、社会変革力、共感的協働力」など、パブリックな力の育成を重視しています。続いて、3校の「百花繚乱作戦」の実践例を紹介します。

### (1) 釈迦内ひまわりプロジェクト

釈迦内小学校と地域住民（サンフラワープロジェクト）が協働し、休耕地に栽培したヒマワリの種からヒマワリ油を搾油し、食用油やドレッシング油に加工して販売する活動で、いわゆる6次産業化の体験です。収益金は、修学旅行に併せた漁業体験の活動費として子どもたちに還元されます（2014年博報賞）。2019年にはトンガ王国の小学校10校にヒマワリの種を提供し、2022年の海底火山噴火に際しては、子どもたちの励ましの手紙と義援金を送っています。



釈迦内小ひまわり

### (2) 北陽中「FM おおだて」パーソナリティー

北陽中学校は、「助けられる人から、助ける人に」を合い言葉に、防災教育活動に力を入れている学校です（2014年内閣総理大臣表彰）。その中学生たちが、地元のFMラジオ放送局で毎週1回パーソナリティーを担当し、地域情報や防災情報等を発信し、市民からも「毎回、楽しみにしている」などの声が寄せられています。



北陽中 FM おおだて

### (3) 花善×東中 駅弁お土産プロジェクト

「花善」は地元の駅弁業者ですが、年1回大館のすべての小・中学生に「鶏めし弁当給食」を提供してくれます。東中学校はその「花善」と協働し、駅弁のお土産商品を開発しています。2021年度には、パリの「花善リヨン駅店」で販売する「鶏めし弁当」とセットとなる「プレミアム駅弁茶+汽車土瓶」を開発し、好評を博しています。



花善鶏めし弁当

## 3. 第3学章「子どもハローワーク」

### (1) 本物体験の「子どもハローワーク」

「子どもハローワーク」は、子どもたちが、休日や夏休みなどを活用し、希望する市内の職場やイベントなどで働く体験ができるという市教育研究所が運営している事業です（2015年博報賞）。企業や団体からの「募集票」は、随時、全小中学校の専用コーナーに掲示され、希望する子どもたちが自ら申し込み、参加します。



子どもハローワーク掲示板

例年150件を超える募集があり、延べ2000人ほどの小・中学生が参加します。中には、年間20件以上の体験をする子どももいます。

子どもたちは、自らの興味・関心に基づいて主体的に

参加するのでミスマッチがなく、参加態度も真剣です。また、学校側の負担もほとんどありません。さらに、体験した記録が「キャリア・パスポート」に蓄積され、この積み重ねがキャリア発達を促し、自らの進路を選択する際の確かな指針となっています。高校卒業後、子どもハローワークで体験した職種（曲げわっぱ職人等）へ就職したケースも増えています。



子どもハローワーク体験活動

## (2) 自前で「未来人財プロジェクト」

「未来人財プロジェクト」は、地方都市の維持に欠かせない専門職（医師、薬剤師、教師等）を意図的に育成する事業です。これらの人財を自前で確保できなければ、地方小都市の自立は望めません。近隣県の大学や病院等と協同し、中・高校生を対象に、「フューチャードクター・セミナー」や「キャンパス訪問」、「教師ミニミニ体験」などを実施してきました。これまで撒いてきた種子が順調に育ち、近年、研修医や教員として大館に還ってくる若者たちが着実に増えていて、手応えを感じています。



フューチャードクター・セミナー

## (3) 「子どもサミット」による「まちづくり」

「子どもサミット」は、「未来大館市民リーダー」を育成するための組織です。各校のサミット代表委員が集まり、よりよい「まちづくり」のためにできることを協議し、全校で実行します。これまで、「街の人にあいさつを」、「ペットボトルキャップ回収」、「こでんりサイクル」「心のバリアフリー」などの活動を展開しました。また、毎年、岩手県釜石市を訪問し、防災リーダーとしての資質も磨いています。



子どもサミット

## 4. 第4学章「おおだて型授業（響学）」

「おおだて型授業（響学）」は、「秋田式探究授業」をベースに、「共感的協働的学び合い」の機能を高めることで、「主体的・対話的で深い学び」の実効性を高めた独自の進化形です。2017年に「講義式一斉授業」を禁止し、「高い反応力を備えた児童生徒主体の学び合い」を全面的に展開しています。また、「一人たりとも置き去りにしない授業」の実現に向けて、教師側の個別支援に加え、「仲間を置き去りにしない学習集団づくり」を重視しています。加えて、授業は9年間を通したキャリア能力育成の場と、明確に位置づけている点も特色です。



授業風景

### (1) 「幸いに至る授業」へのアプローチ

「おおだて型授業（響学）」も、一様ではなく、徹底した子どもたち主体の学習活動を究めている花岡小学校「チャレンジ授業」（2017年博報賞）や、キャリア能力育成の観点を全面的に組み込んだ第一中学校の「追究型学習」、全員挙手などのアクティブな学習姿勢により創り上げる北陽中学校の「学美<sup>まなび</sup>」などもあり、各学校が創意工夫を重ね日々進化しています。

このような実践により、「伸びやかな知性、しなやかな感性、豊かな人間性」が響き合う学びの場が増え、大館教育が理想とする「幸いに至る授業」へと接近しつつあります。

### (2) 大館市「授業マイスター」認定制度

2014年から、市独自で、卓越した授業力を有する教員を「授業マイスター」として認定する制度を実施しています。現在では、大館全体で17名の「授業マイスター」が存在し、毎年、市教委主催の「若手教員授業力向上研修」にて授業を公開し、深い授業観と高い指導技術を直接若手教員に伝授しています。この他に、「英語 de 数学」など斬新な試みに対しては「チャレンジ授業賞」を、地域素材を教材化した授業には「ふるさと授業賞」を贈り、「おおだて型授業（響学）」の内なる進化を奨励しています。

### (3) 「アンチ SES」は大館教育の使命

近年、保護者の社会的経済的地位（SES）と子どもの学力の相関が問題視されていますが、大館の小・中学校はSESが低いにもかかわらず、高学力を維持していることが実証されました。右上の図は、それを示すドットプロットで、調査対象となった田代中学校、有浦小学校ともにトップレベルに位置しています。この高学力を生み出しているのが「おおだて型授業（響学）」です。SESによる学力格差の相関を打ち破ることは、公教育の重要な社会的使命と考えています。

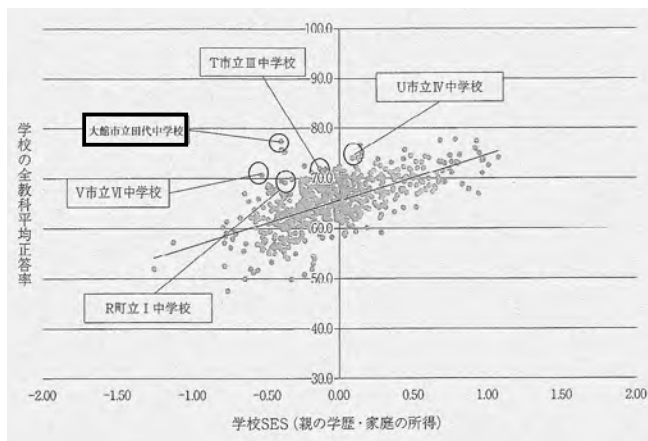


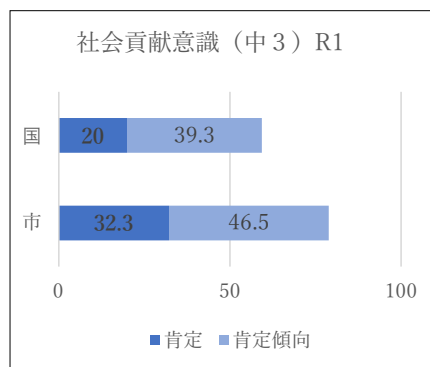
図 11-6 2017年度・学校の学力と社会経済的背景の関係  
—抽出対象校 580校 ドットプロット

## エピローグ「学びの交響学」への誘い

### (1) 「未来大館市民」たる子どもたちの姿

大館の子どもたちは、私たちの当初の期待を遙かに突き抜けて成長し、「未来大館市民」として、市民の誇りと希望たる存在になっています。大館教育を視察した教育大学の教授から、次のような評価をいただきました。「現代の子どもたちは、今と自分にこだわって生きている。大館の子どもたちは、社会に目を向け、未来を見つめて成長している。だから、成長のスピードもスケールも格段に違う。」と。

このような特長については、データの面でも裏付けられます。下のグラフは、全国学力学習状況調査によるもので、大館教育で重視する「自己肯定感」や「社会的貢献意識」が極めて高い水準にあります。「ふるさとキャリア教育」実施前においては、これらの意識は全国平均とほぼ同程度の数値だったことから、大館の子どもたちの「自己肯定感」の中核を形作っているのは、「ふるさとキャリア教育」で培われた「社会的自己有用感」であろうと分析しています。



## (2) 大館教育の進化・深化・真価

もともとゼロ予算、見切り発車の「ふるさとキャリア教育」でしたが、この教育を根幹としたことが、大館教育に飛躍的な進化・深化・真価をもたらしました。ベクトルを差し示すのは市教委ですが、そのルート選択については各校の自由を保障しました。すると、そこかしこで主体的な変革が始まり、それらが化学反応を起こしながら、さらなるシンカやエネルギーを生み出すという好循環が続いている状況です。

2021年度、市内の高校生の地元就職率が、目標だった75%を初めて超え、2022年度は80%にまで達しました。10年前には、50%にも満たない就職率だったので感無量です。地元企業等の雇用状況にもよりますが、「ふるさとキャリア教育」で育った高校生たちはもちろんのこと、市民や保護者の大館に対する肯定的な意識変容が背景にあるものと推察しています。

2016年度からは、「大館市総合計画」の冒頭に、「ひとづくり（ふるさとキャリア教育）」が位置づけられ、市長部局と教育委員会が一体となって、「まちづくり」を進めています。市長部局が企画し、ネットに配信している「転生して大館移住したら（教育編）」の動画は必見の傑作です。教育には、権力も財力もないけれど、人の意識を変革することは教育にしかできない働きであり、その道筋を正しく歩めば、必ずや社会も時代も変え得るものと信じています。

今年度から、若手・中堅世代のキャリアアップに資するポータルサイト「大館学び大学」を開設するとともに、「障害者の生涯学習」もさらに充実します。大館は、子どもたちと市民が一体で奏でる「学びの交響学<sup>シンフォニー</sup>」の世界です。全国の教育関係者の皆様には、ぜひ大館にお越しいただき、幸いの世界へと誘う「交響学 未来へ」の響きを体感していただきたいものです。